

次期制度見直しへ地域から発信

22日、北見でオホーツク圏域福祉を考えるシンポジウム

事業者団体や職能団体、行政が協力し、オホーツク圏域の福祉を考えるシンポジウム「あすの介護保険を考える」が二十一日、北見市内で開かれる。施設・訪問系サービス事業所、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターが現状や課題を踏まえ、介護保険の在り方などを議論。二十四年度には介護保険制度見直し、介護報酬・診療報酬同時改定が控えているだけに、地域からの発信は重要で、注目を集めそうだ。

介護保険在り方など議論

主催は北海道認知症高齢者グループホーム協議会網走ブロック、北見地区介護支援専門員連絡協議会、北海道介護福祉士会網走支部、北海道社会福祉士会オホーツク支部で、北見市が共催。オホーツク圏域が抱える課題を明らかにしながら、人材育成や高齢者を支える仕組みづくりな

事業者団体、職能団体、行政が協力

ど、制度のあるべき姿、持続するための方策などが話し合われる。北網三地域(北見・網走・美幌)では二十一年十一月から、医療・介護関係職種が地域の課題解決に向けて話し合う「タウンミーティング」を開催。職種枠を超えたネットワークづくりが進んでいる。今回のように、関

係団体・機関が協働で開催するシンポジウムは、一層の連携強化につながる。

当日は、制度改革などに携わり、介護現場に足を運び事業者・職員に対する理解が深い藤木則夫・道厚生局長

が二〇一二年の介護保険改正をどう迎えるかを基調講演。

「オホーツクの介護

保険 現状・課題・展望をテーマに、青山由美子同ブロック会長、小泉昭江北見地区介護支援専門員連絡協議会長、三浦道子北見総合在宅ケアセンター長、銀田聡地域包括支援センターあばしり東所長が論議する。座長は早川浩上ハヤカワプランニング代表。

21日、人財育成北見塾

エーデルワイスは人財育成北見塾「二〇一二年に向けた人材改革はいかにあるべきか」を二十一日、北見市北光住民センターで開く。講師は早川浩上ハヤカワプランニング代表。講座は①DVDあすのりんかくー小さ

な宅老所の物語」視聴、看取りの在り方を検討(午前八時半～十一時半)朝食付き②グループワークやリスクマネジメントに対する考え方の確認(午後零時半～四時)③人材改革のポイント(四時半～六時半)④の三部構成。定員は①十五人、②各二十人。参加料は各三千円、全講座受講七千円。問い合わせは0157(61)6670。